



月の光奉賛会

令和元年12月12日 満月

多久頭魂神社・天神多久頭魂神社での御神事

日時：12月12日の満月の日か、前後日

場所：豆殿の多久頭魂神社（悠紀宮伝承）

場所：佐護の天神多久頭魂神社（主基宮伝承）

大嘗祭がつながり執り行われ、次の時代に歩み始めています。

大嘗祭が行われる前日 11月13日に「はやぶさ2」はリュウグウから地球に向けて帰還を開始しました。「はやぶさ2」は、次の時代を始動させる試料を2020年11月に持って帰るようになっていて、地球に帰還した翌年2021年1月1日の天皇陛下の四方拝から、言霊の力が全ての人に解き放たれます。無事に次の時代に入れるように祈念したいと思います。

■御祈願の趣旨■

御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。

宮司様到大祝祝詞を奏上していただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

■「月の光奉賛会」とは■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年（1995年）の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々その先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたって、こういうことが自覚できるように御神事をやっていくことを目的として設立しました。

月の光奉賛会の名称で、玉串料をお送りします。

みなさまの地元の神社の宮司様に對馬のチラシをお渡し、そして、地元の神社に玉串料を納め、對馬に合わせた御神事をお願いします。

■令和元年9月27日に「大嘗祭」のコメの収穫儀式「斎田抜穂の儀」■

悠紀田は、栃木県高根沢町の石塚穀男さん（55）の田んぼ。

主基田は、京都府南丹市の中川久夫さん（75）の田んぼです。

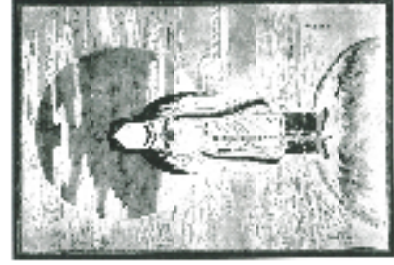
9月18日にお二人の田んぼと決定し、9月27日に刈り入れされました。

令和元年11月14－15日の大嘗祭ではお二人が育てられたお米が使われることになりました。

東西の悠紀・主基に対して、對馬では南北の悠紀・主基が定められています。對馬南部の豆殿にある多久頭魂神社が悠紀宮と呼ばれ、對馬北部の佐護にある天神多久頭魂神社が主基宮といわれています。

悠紀（ゆき）・主基（すき）の語源については不明といわれていますが、彦火火出見尊の父神である瓊々杵尊が天孫降臨される時、降臨地点を「行き過ぎ」ないよう座標軸を示されたものと思われまます。高皇産靈神や神皇産靈がお働きになられていた遠い神代の昔から、對馬には、座標軸を示す特別な使命が与えられていたのだと思います。

悠紀・主基を決める亀ト（きぼく）は、御皇室と對馬の豆殿に伝承されるのミとなつてゐることを鑑みて、豆殿の重要性が示されています。さらに、豆殿と對で語られる北の佐護の位置がわかります。



さらに、豆殿に伝承されている「天童」は、地球の大地変異があつた時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために龍良山（たつらさん）に降臨された天照皇大御神さまの御姿です。

天照皇大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童（男の子のわらべ）」として降臨されているので、特別に對馬では「天童」と尊称してききました。

度重なる変転によって、現在では、「天童」と「天道」が混同、習合し由来が失われています。

平成から令和への御代替りに当たつて、遠い神代の昔から古代、近現代史において對馬の果たした役割に思いを馳せ、満月の日か、その前後に祈りを捧げたいと思います。

＜ 月の光奉賛会 代表 成田 亨 ＞

〒177-0033 東京都練馬区高野台1-23-30 ガーデンコート高野台805

携帯 080-9175-4666 メール naritatooru@gmail.com